

盆踊り漫遊

竹中尚文

第2回

1. お寺で盆踊り

前回、アメリカのお寺での盆踊りの話をしました。盆踊りに対する熱の入れようは、私からは想像を超えるものでした。クリスマスより盆踊りの方が重要なのか？と驚きました。アメリカで暮らす人なのだから、盆踊りよりクリスマスの方が圧倒的に大切な年中行事だと思っていました。ところが、アメリカのお寺に通う人たちに限って言えば、盆踊りの方が大切なのです。

そこで、私はこれらの人々がいつ頃からのようにして盆踊りを踊るようになったのか疑問に思いました。アメリカでの盆踊りについて記述をさがしました。そうしたものはなかなか見つかりませんでした。そんな時、友人が大学院の修士論文だけれど、アメリカでの盆踊りの始まりについて書いたものがあると教えてくれました。

それはリンダ・アキヤマ氏が UCLA の修士論文で書いたものでした。(Linda

Cummings Akiyama : Reverend Yoshio Iwanaga and the Early History of Doyo Buyo and Bon Odori in California ; the degree master of arts in dance, UCLA 1989)

アキヤマ氏によれば、1931年サンフランシスコでお盆行事が行われて、そこで初めてアメリカの盆踊りが踊られました。それ以前から各地で単発的に盆踊りを踊ったかも知れませんが、明確な記録はありません。この時の盆踊りはヨシオ・イワナガ師の力によるものでした。それは規模も大きく、写真も残っているそうです。1930年代はイワナガ師によってアメリカ西海岸で盆踊りが急速に広がりました。しかし、それはあくまで日系人社会においての話です。他の記述では、シアトルで初めての盆踊りが、1932年であるそうです。(「シアトルのボンオドリ」本多彩『アジア遊学』39号)

2. 盆踊りの始まりの背景

岩永義雄師は 1900 年に熊本県で生まれています。アメリカに渡ったのは 1930 年 8 月です。最初に身を寄せたのは、サンフランシスコの東 100 キロ程のところにあるストックトンのテラカワ師の所でした。浄土真宗北米開教区の記録では、イワナガ師は 1927 年に得度式を受けて僧侶になっています。正式に開教使になるのは 1935 年ですから、一僧侶として渡米したのでしょう。

テラカワ師の所に身を寄せたイワナガ師は浄土真宗の寺院の日曜学校や日本語学校で子供たちに、童謡を教え始めます。

この背景をアキヤマ氏は明解に説明をしています。当時、浄土真宗のお寺はキリスト教の教会に信者を奪われていきます。この信者というのは、ほぼすべてが日本からの移民です。キリスト教会はアメリカ社会と密接に繋がっています。その繋がりを使って日系信者の就職を手助けしたようでした。1929 年には世界恐慌が始まりました。この頃は景気後退の時代でしたから、就職は難しいものとなっていました。だから、就職の仲介をしてくれる教会はありがたいものでした。この状況の中で、多くの信者がキリスト教会に移っていったのも

うなずけます。

お寺は信者をつなぎ止めるために、子供たちに日本語を教えたようです。子供たち対象に、日本語教室や日曜学校の活動に力を注いだようです。アキヤマ氏は、ストックトンでイワナガ師とテラカワ師が日系の子供たちに日本語を教える必要性を語り合ったと指摘しています。また、子供たちをお寺の日本語教室であずかることも大切でした。当時は、父親だけが働きに出て母親は育児という家庭が多い時代に、日本からの移民は夫婦で働きました。だから、学校が終わった後で子供をあずかってくれるお寺の存在はありがたいものでした。

子供たちというのは、日系二世です。この日系アメリカ人二世について、少し説明をしたいと思います。日本から海外に移住した人々が渡航先で最も多いのがアメリカ合衆国です。多くの日本人はブラジルじゃないかと思われるかも知れません。1993 年の資料ですが、海外の日系人口について、ブラジルが約 62 万人、アメリカ合衆国が 76 万人です。多くの方がブラジルの日系人が最も多いと思われるには理由があります。戦前にブラジルに渡った人は約 19 万人に対してアメリカ合衆国へは約 34 万人です。戦前は圧倒的にアメリカ

に移民した人が多かったのです。1924年
がそのターニングポイントです。この年に、
アメリカ合衆国は日本からの移民を全面的に
禁じました。この理由や背景については、
改めて申し上げたいと思っています。

1924年は大正13年です。日本からの
移民は、明治・大正期にはアメリカ合衆国
に渡り、昭和になるとブラジルを中心とし
た南米に向かったのです。我々にとって明
治・大正より身近に感じられる昭和の時代
にブラジルに移住をした人が多かったの
で、日本からの海外移民というとブラジル
をイメージするようになったのでしょう。

アメリカ合衆国に渡った日本人は、
1924年以前になります。アメリカ合衆国
において日系人は、明治大正期に移り住ん
だ人たちが一世で、その人たちの子供が二
世になります。そうすると、日系米人の二
世とは、大正期から昭和の初めに生まれ
た世代です。そしてその子供たちが三世
です。三世のほとんどが、戦後に生まれ
ています。アメリカの日系社会は、一世
と二世と三世がその年齢で区別でき
てしまう社会でした。

話を元に戻したいと思います。信者
をつなぎ止めるために日本語を教える
とは、どういうことか。一世の人たちは、
渡米に際

して十分な英会話力を身につけて渡
ったわけではありません。そんな余裕
もなく、片言の英語も話せたかどう
か分かりません。彼らは想像に余り
ある状況の中で働き始めたのだと思
います。膨大な努力の結果としてほん
の少しの経済的余裕が彼らに家庭を
持つことを可能にしました。子供が
生まれて、二世の誕生です。アメリカ
合衆国では、アメリカ合衆国の国土
で生まれた二世はアメリカ人です。一
世は日本人です。二世はアメリカで
学校に通いますから、彼らは英語で
生活をするようになります。一世は
日本語を話し、二世は英語を話すの
です。一世は、自分の子供たちに家
庭の中では日本語で話すことを強く
求めたとよく聞きました。かつて、
二世の人たちは「子どもの頃、家
に帰って英語を話したらダメ」と
親からいわれたそうです。

アキヤマ氏の論文によれば、イワ
ナガ師は日本語教室や、日曜学校で
子供たちに童謡を教えたそうです。そ
して、童謡の発表会をしました。発表
会では、振り付けをして童謡を歌
うようになりました。それは盆踊り
に近いものになったようです。イワ
ナガ師は1933年に日本に一時帰
国をします。その目的は本願寺派教
師資格(住職としての資格をこのよ
うにいいます)を取得す

るためです。この時、彼は日本で花柳流の踊りを習っています。再渡米した彼は、西海岸のお寺に盆踊りを教えて巡回をしました。1935年に開教使の資格を取得し、ストックトンのお寺のピアノオルガン奏者であったヘレン・オカモトという日系二世の女性と結婚をします。翌年、彼はストックトンのお寺の住職になりました。その後、彼は夫人をともなって、西海岸のお寺を回って盆踊りを広めています。この頃に、現在のアメリカで寺院の盆踊りのスタイルができました。それは、盆踊りの始まりにそのお寺の僧侶が合掌して念仏を言ってから、盆踊りが始まります。1940年にサンフランシスコの南にあるモンレー湾に面したウォソンビルのお寺に移ってから、熱心に盆踊りの普及活動を行います。この頃になると全米の浄土真宗のお寺で盆踊りを踊るようになりました。それは、

1942年の日本人及び日系人の強制収容の時まで続きます。イワナガ師とその家族はアリゾナ州ポストンの収容所に送られました。そこでは盆踊りを踊ることもなく、イワナガ師の活動に関する記録もほとんどありません。全米各地の収容所においても盆踊りを踊った記録はありません。しかし、ごく少数の方ですが、私は盆踊りを収容所で踊ったという人に会ったことがあります。

そんな時代を経て、日系人たちは収容所から出ると直ぐにまた盆踊りを始めました。それから益々盛んになって今日につながっています。

今回は、アメリカにおける盆踊りの始まりについてお話をしましたが、次回は、激動のこの時代についてももう少し語りたと思います